

ブチクスクスの判定について（案）

令和3年4月6日から4月12日までの間に第6回特定外来生物等分類群専門家グループ会合（哺乳類・鳥類）（以下「グループ会合」という。）を開催し、収集した知見を基にブチクスクスの判定について検討したところ、当該種について、下記のとおり、生態系等に係る被害を及ぼすおそれはなく、特定外来生物への指定は不要との結論を得た。

グループ会合で得られた結論を踏まえ、特定外来生物等専門家会合としては、当該種について、生態系等に係る被害を及ぼすおそれはなく、特定外来生物への指定は不要と判断する。

記

- ・南緯 0-15° 程度の熱帯・亜熱帯常緑広葉樹林帯に生息する種であり（オーストラリアのウェイパは年間気温 24～28℃）、日本及び他の温帯域での定着実績がなく、気候的に国内本土域での定着は難しいと思われる。ただしこの点では南西諸島（年間気温 19～29℃）においてはより可能性は残るものと考えられる。
- ・国内の野外に定着した場合、食物として在来植物や昆虫類等を摂食する可能性があり、生息場所等ニッチの重複によりムササビや二ホンザル等との競合が考えられる。しかし国内には既に多くの有胎盤類が生息することを考えると、動きの遅い本種が在来の有胎盤類との競合や捕食を排除したうえで定着し、生態系被害を与える程分布を拡大するとは考えにくい。
- ・国内の野外に定着した場合、捕食者としてはクマタカ等の猛禽類の他、キツネやテン等の中型ほ乳類が想定される。動きが鈍いため、外敵からは比較的容易に捕食されると考えられる。また、万一飼育地から逃亡した場合の捕獲は比較的容易と考えられる。
- ・国内に近縁種は分布せず、交雑による遺伝子攪乱のおそれはない。

以上